

### テーマ3:産業と市民生活を支える港づくり

中部圏における国際ゲートウェイとしての役割を果たし、背後圏産業の発展を支えるとともに、人々が憩い、楽しむことができる市民に親しまれる港づくりに努める。

#### 現状と課題

四日市港は、明治43年に第2種重要港湾に指定された当初は綿花・羊毛の輸入港として、また、昭和40年代には石油化学コンビナートとしてシーバースを備えた重化学工業の原材料輸入と製品の輸出拠点となった。

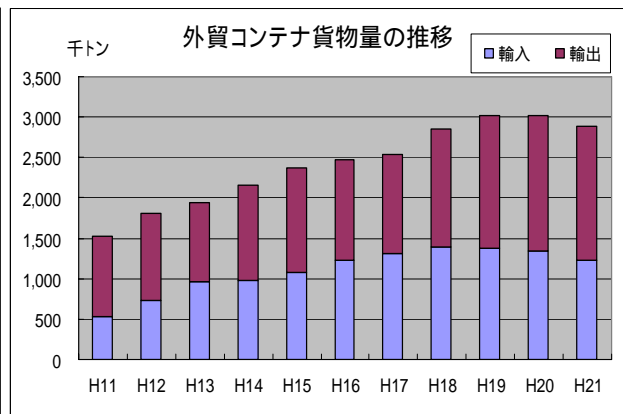
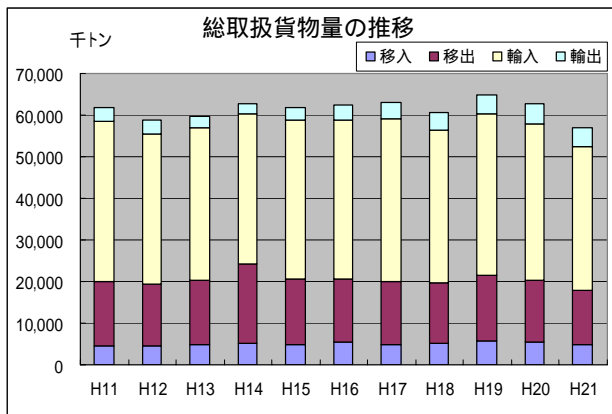
また、内陸部に自動車製造拠点が整備されると完成自動車の輸出拠点、石炭、鉱石等のばら荷（バルク）貨物の輸入拠点としての役割もあわせ持つなど、背後地の産業と緊密に結びついた工業港として産業構造の変化に柔軟に対応してきた。

また、貨物のコンテナ化への対応を進めるなど、背後地産業の物流コスト削減を通じて、企業の価格競争力の維持・向上と、雇用を通じて市民生活を支えてきた。

しかし、経済活動が国際化しており、四日市港は名古屋港と一体となって、国際的な産業の中核である中部圏域を物流面で強力に支える伊勢湾港として、更なる機能強化・連携を図っていくことが求められている。

また、港内の緑地、ポートビル展望展示室の整備を進めてきたが、それぞれが分断化されていることから、港内の近代化産業遺産などを含めて市街地とネットワーク化し、魅力的な親水空間を創出することが求められている。

【四日市港の港勢】



#### リーディングプロジェクト

##### (港湾機能の強化)

スーパー中枢港湾として取り組んでいる港湾コストの低減に加えて、名古屋港との一体化も視野に入れて、寄港コストや手続きの簡素化につながる「一開港化」の早期実現や港湾事業者と連携してコンテナターミナル施設の使用料など、さらなる港湾コストの低減に努める。また、高速道路網を生かした広域からの貨物集約や、ゲートオープン時間の拡大などの荷主へのサービス向上に努め、名古屋港と緊密に連携して「伊勢湾港」としてモノの流れを増加させる。また、霞ヶ浦地区から背後の高速道路との円滑な連絡及び災害時の代替性の確保にも資する臨港道路霞4号幹線の整備促進とともに、霞ヶ浦地区から南方面への道路計画の調査検討を進める。

臨港地区及び背後地産業の物流の効率化に伴い大型化する石炭、鉱石等を輸入するバルク船に対応するため、岸壁、泊地などの港湾施設の改良を行うとともに、企業の

占用バースについては、関係機関と積極的に諸調整を図り、機能の充実・強化に努める。

注) スーパー中枢港湾：日本のコンテナ港湾の国際競争力を重点的に強化するため、官民が連携して港湾の重点投資や機能強化を進め、アジア主要港に対抗できる国際拠点港を育てるプロジェクト。伊勢湾（四日市港・名古屋港）京浜（東京港・横浜港）阪神（大阪港・神戸港）の三港湾が指定されている。

### （まちづくりと一体となった港づくり）

四日市港管理組合と連携し、千歳地区に代表される臨港地区の工場跡地活用を図るため、分区規制のあり方の見直しや緑化等に取り組み、まちづくりと一体となって臨港工業地帯の有効活用を進める。

大型客船などの寄港については、旅客船を利用した伊勢観光に加え、新名神高速道路の開通に伴い、京都方面の観光需要も高まっているが、現状は貨物船との調整をしながら霞ヶ浦地区のふ頭を利用していることから、長期構想に位置づけられている四日市地区第1ふ頭を旅客船ふ頭とする計画を促進する。

臨港地区に点在する緑地を活用した親水空間のネットワーク化やポートビル展望施設の利用促進を図るとともに、港湾の夜景や荷役作業、重要文化財及び近代化産業遺産に指定されている「末広橋梁」や「潮吹き防波堤」などの港湾景観を産業観光資源として活用し、自転車を活かしたまちづくりと組み合わせて周遊コースを設定するなど、市民に親しまれる港づくりを進める。

【末広橋梁】



【潮吹き防波堤】

